



平成二十八年五月二十三日

皇紀2676年
(西暦2016年)
第124号

発行：淀姫神社社務所
〒859-4501
松浦市志佐町浦免632
TEL・FAX 0956-72-0653

夏のような暑さですね

紫外線も強くなってきました

これを書いているのは五月二十三日です。さて、ここ数日間は全国的に夏のような暑さに見舞われています。テレビのニュースや気象情報を見ると、北海道では5月としては記録的な暑さを観測したところもあるようです。

佐世保などは（気象庁の観測データ上では）気温が30℃近くまで届こうかという日が続いていますし、県南部では、はやくも気温30℃以上の「真夏日」を観測していたりします。

ここ松浦地方は、長崎県内でも比較的涼しい地域なので、（同じく観測データ上では）気温が25℃を超える「夏日」を記録した日は、現在のところまだ2日しかありません。

それでもやたら暑く感じるのは、この時期から非常に強まる紫外線のせいかもしれません。

外出の際の注意事項として、こまめな水分補給はもちろんのこと、日焼け止めの塗布や、日傘などによる紫外線の防止対策などが呼び



かけられています。

紫外線は想像以上に体にダメージを与えます。「日焼けくらい」と思わずに、しっかりと対策をしておくようにしましょう。

季節の言葉あれこれ

さて、今回もまた季節の言葉をご紹介です。この号が皆さまのお手元に届く頃には、そろそろ梅雨入りも近いと思いますので、そんな時期の言葉をひとつふたつご紹介したいと思います。

【走り梅雨】（はしりづゆ）

本格的な梅雨になる前の梅雨模様を表わす言葉で、俳句などの季語としても使われます。

「走り梅雨」からそのまま梅雨入りを迎えることもありますが、多くの場合は再び晴れ間を覗かせて、それから本格的な梅雨の季節を迎えます。

そのことから、梅雨の初めを表わす言葉として使われます。

「走り」には、魚や野菜などの初物に使われることもあるように、「走り梅雨」という言葉には、幾分かの物珍しさを含んでいるようです。



【青梅雨】（あおつゆ）

新緑に降りそぐ梅雨の雨をさす言葉で、俳句などの季語に用いられたりします。

この「青梅雨」という言葉は、「新緑の葉が雨に打たれてひときわ映えている」という意味のほかに、情感としては少々異なる意味もあるようです。

古くから「青」という語には、色彩上の意味とは別に、「青二才」「青侍」など「まだ幼く未熟である」という意味を含むこともあります。

これらのことを見るに、「青梅雨」という言葉に、梅雨真っ盛りの頃のような重い雰囲気はただよわなようです。

◆
これからの季節は、気温や湿度も高くなり、雑菌などが繁殖しやすい環境になり、食中毒なども起きやすくなります。

手指はもちろんのこと、台所や食器、手で触るいろんなところは、アルコールなどできちんと消毒して、衛生管理には気をつけてお過ごしください。

淀姫神社インターネット公式サイト「淀姫神社WEB」 <http://yodohimejinja.com/>

各種最新情報・blog「淀姫日記」にて「お祭りレポート」などなど、内容盛りだくさんでお送りしています。ぜひともチェックしてくださいませ。